

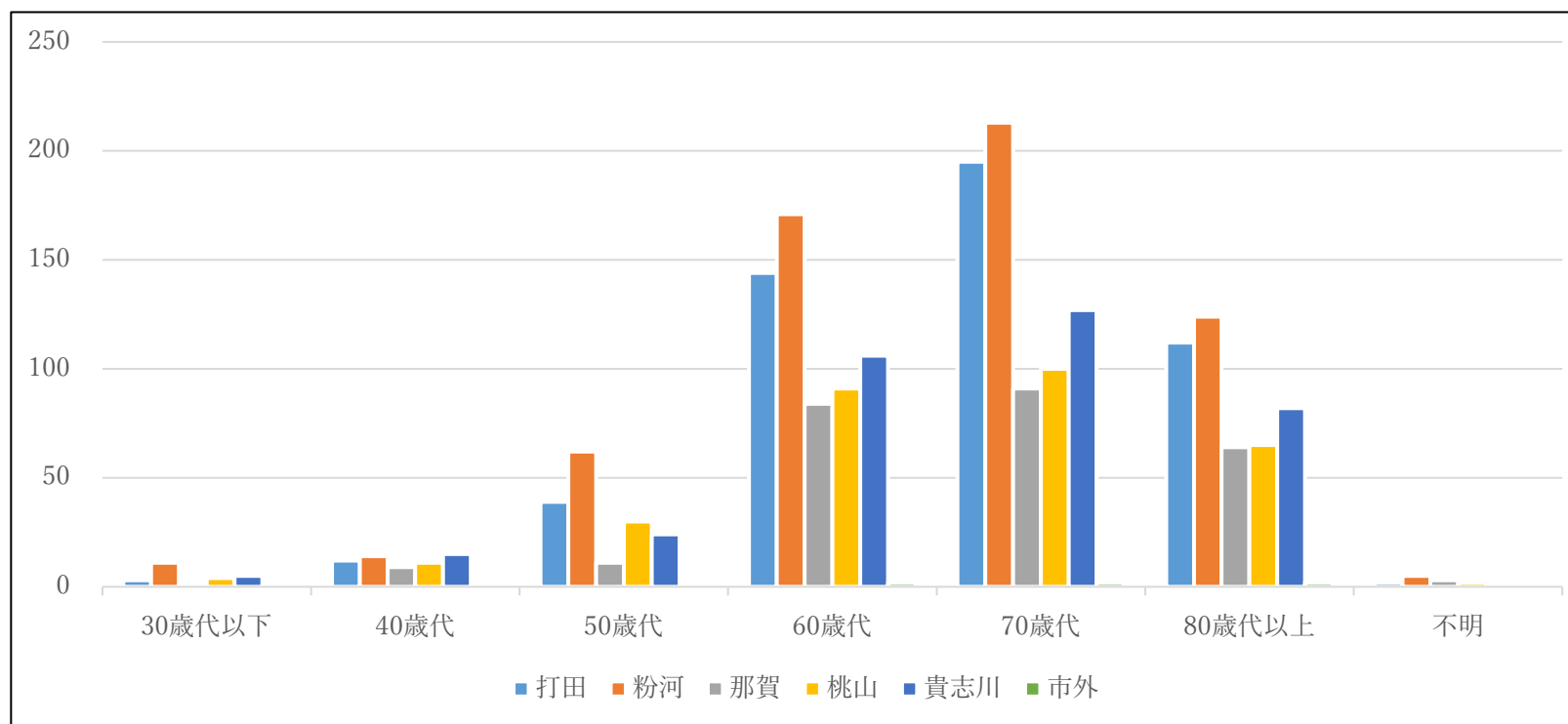
紀の川市人・農地プランアンケート調査結果

地域農業の将来に関するアンケート調査実施要領

1. 趣 旨 地域農業の振興に必要となる本市の「人・農地プラン」を実質化（地域農業の将来のあり方を明確化すること）するとともに、農地中間管理事業等による農地の利用集積・集約化を促進することを目的として、後継者の有無や農地利用等の状況を把握するためにアンケート調査を実施する。
2. 調査対象 " 紀の川市内で合計 10a 以上の農地を所有または耕作している市内在住者（但し、貴志川町尼寺地区を除く。） "
3. 調査方法 " アンケート調査用紙と返信用封筒を郵送し、返信用封筒により回収する。 "
4. 基 準 日 令和 2 年 6 月 1 日
5. 調査期間 回答期間として令和 2 年 7 月中旬～ 8 月 【回答期限：8 月 31 日（月）】

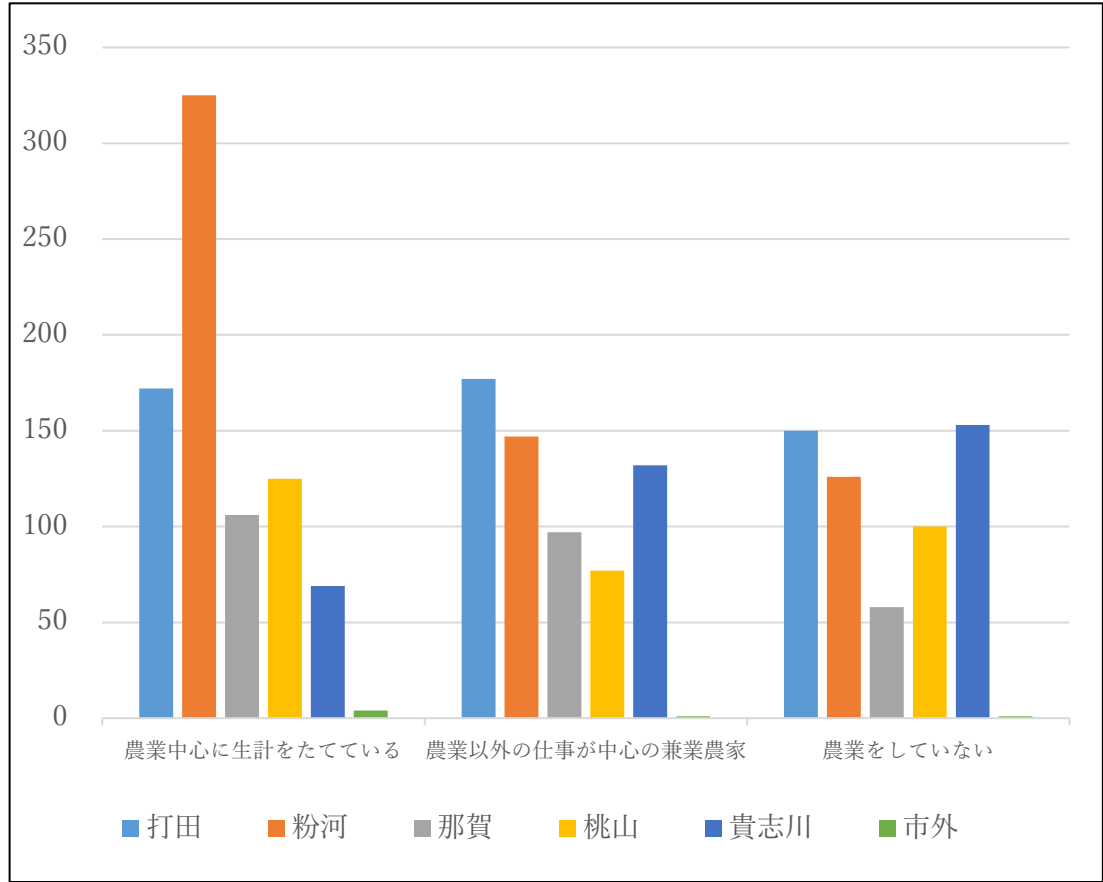
〔問 1,2〕 回答者の年齢と住んでいる地域分布について

	全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川	市外
30歳代以下	24	3	11	1	4	5	0
40歳代	61	12	14	9	11	15	0
50歳代	166	39	62	11	30	24	0
60歳代	598	144	171	84	91	106	2
70歳代	728	195	213	91	100	127	2
80歳代以上	449	112	124	64	65	82	2
不明	12	2	5	3	2	0	0
合計	2,038	507	600	263	303	359	6



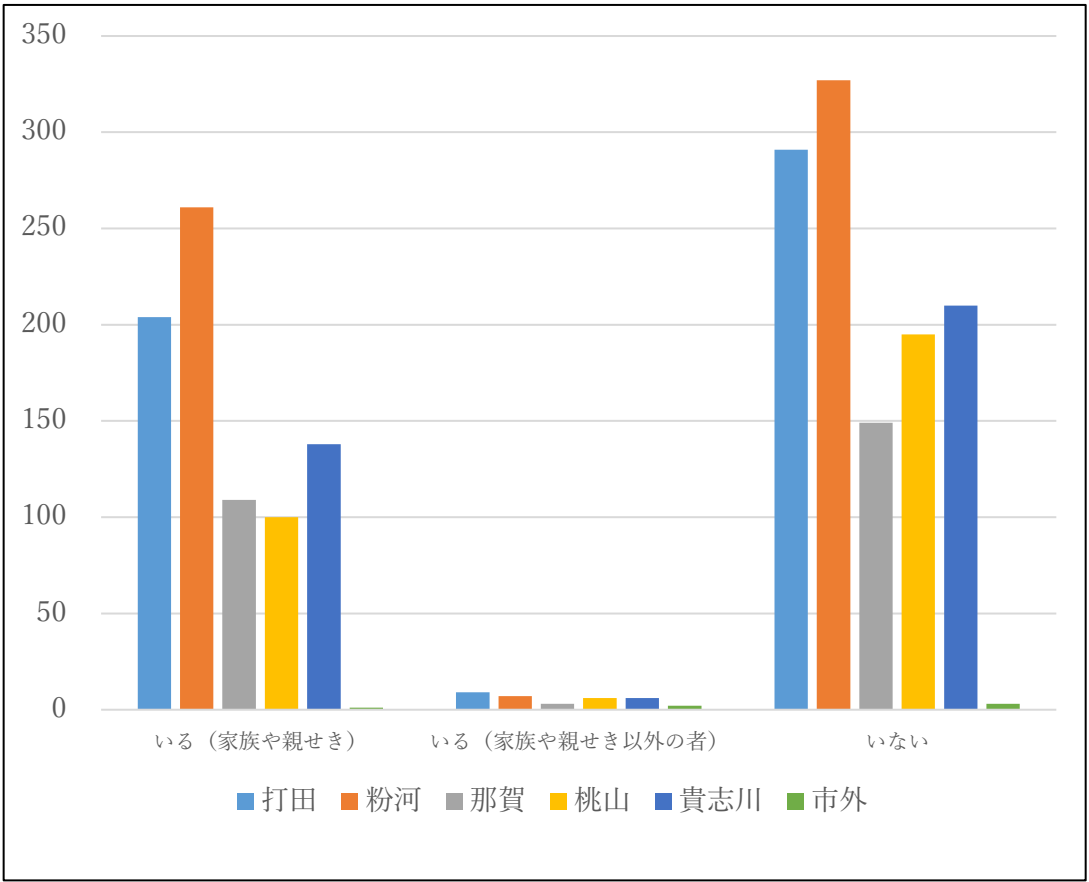
〔問 3〕 世帯について

	全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川	市外
農業中心に生計をたてている	801	172	325	106	125	69	4
農業以外の仕事を中心の兼業農家	631	177	147	97	77	132	1
農業をしていない	588	150	126	58	100	153	1
合計	2,020	499	598	261	302	354	6



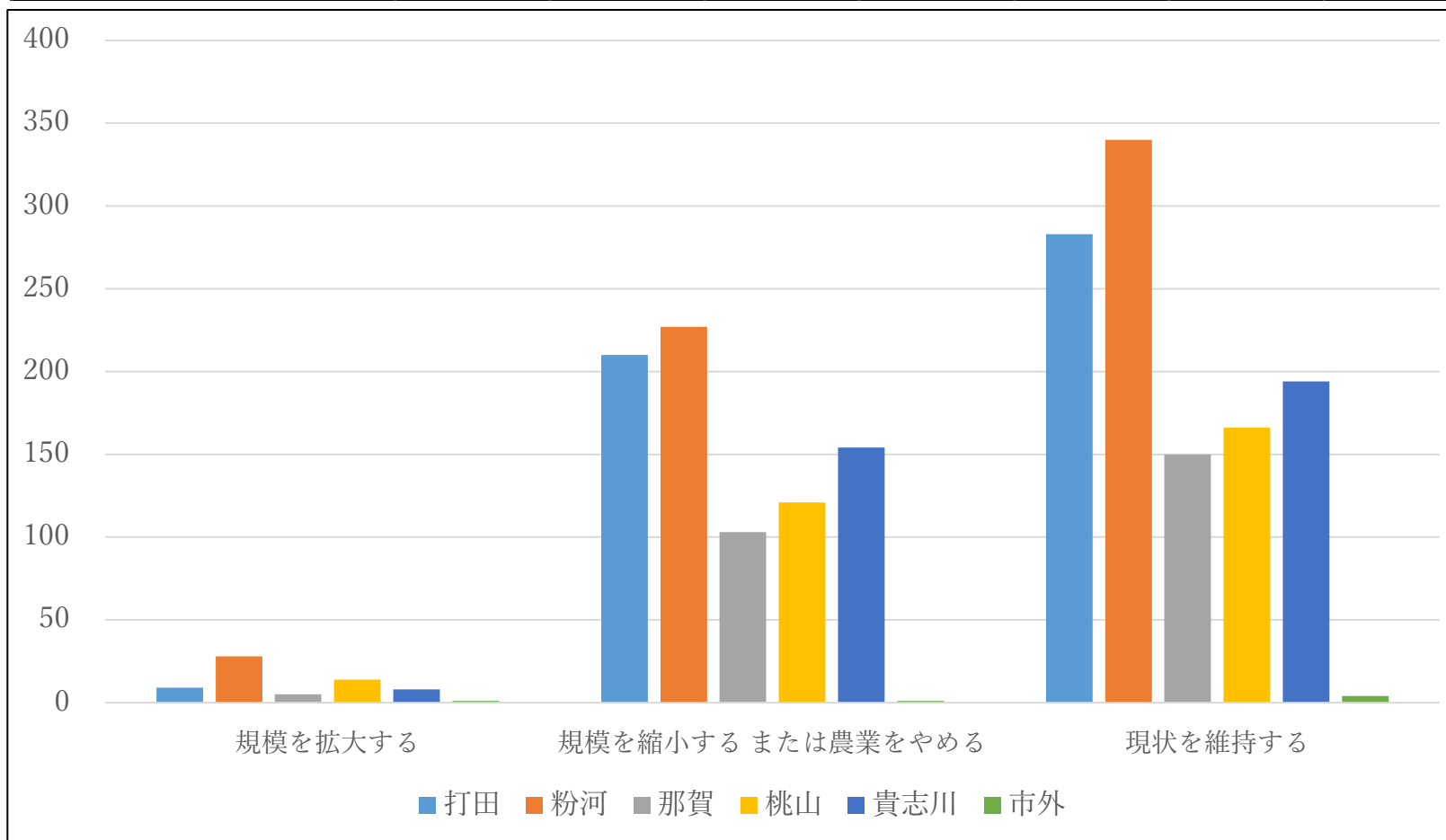
〔問 4〕 農業後継者について

	全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川	市外
いる（家族や親せき）	813	204	261	109	100	138	1
いる（家族や親せき以外の者）	33	9	7	3	6	6	2
いない	1,175	291	327	149	195	210	3
合計	2,021	504	595	261	301	354	6



〔問 5〕 5～10 年後の農業経営について

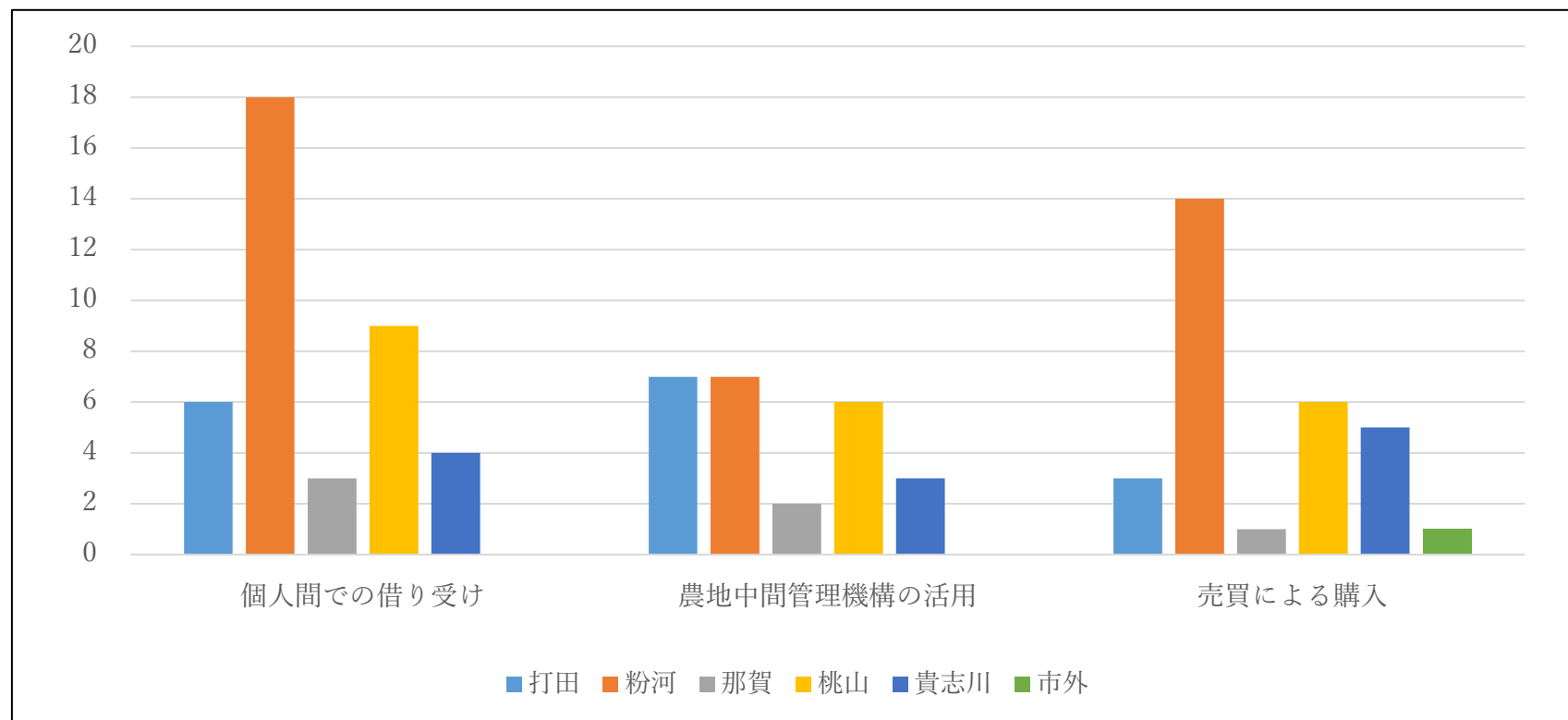
	全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川	市外
規模を拡大する	65	9	28	5	14	8	1
規模を縮小する または農業をやめる	816	210	227	103	121	154	1
現状を維持する	1,137	283	340	150	166	194	4
合計	2,018	502	595	258	301	356	6



【問5で「規模を拡大する」と回答された方】

〔問6-2〕農地の拡大方法について

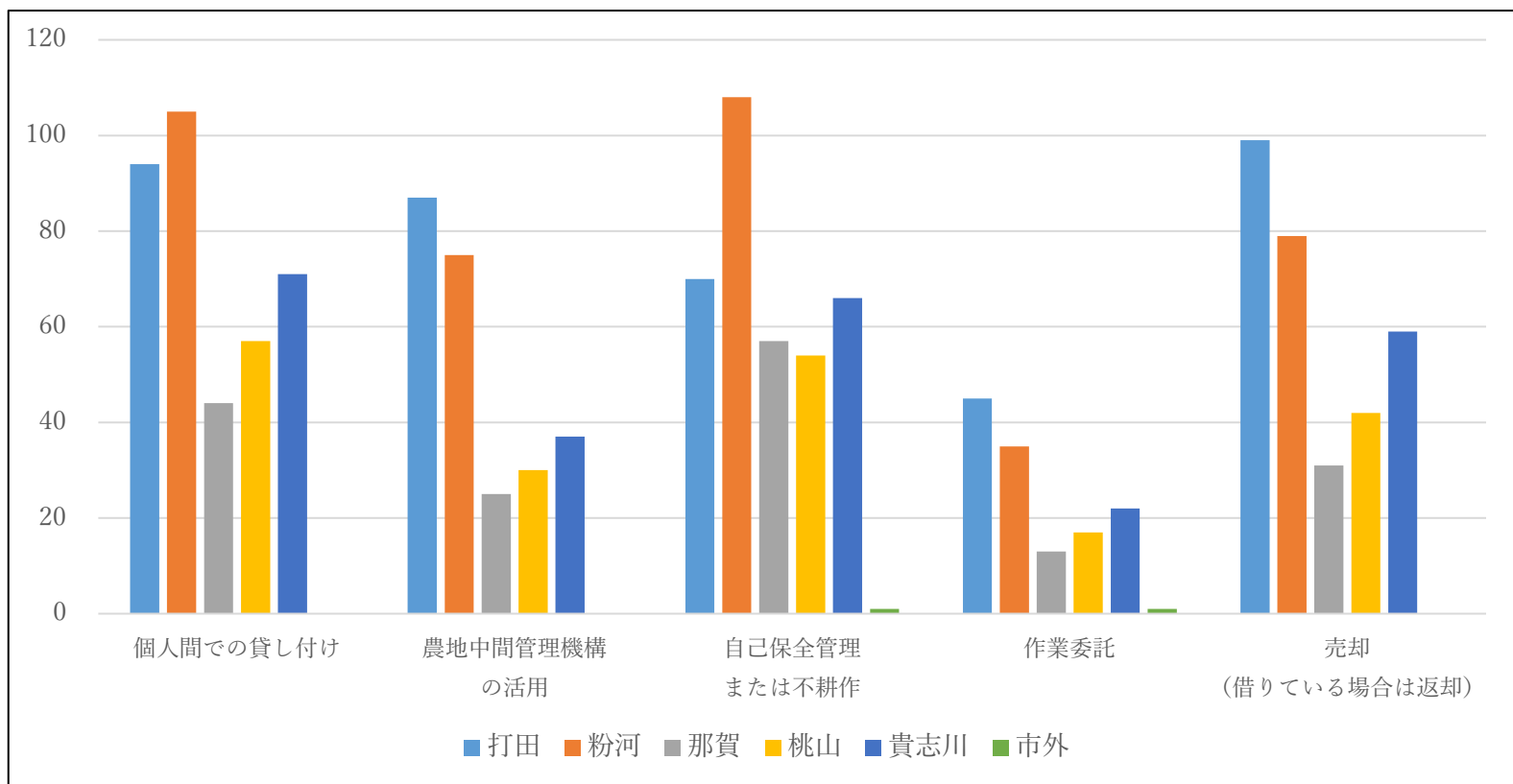
	全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川	市外
個人間での借り受け	40	6	18	3	9	4	0
農地中間管理機構の活用	25	7	7	2	6	3	0
売買による購入	30	3	14	1	6	5	1
合計	95	16	39	6	21	12	1



【問5で「規模を縮小するまたは農業をやめる」と回答された方】

〔問7-1〕農地の縮小方法について

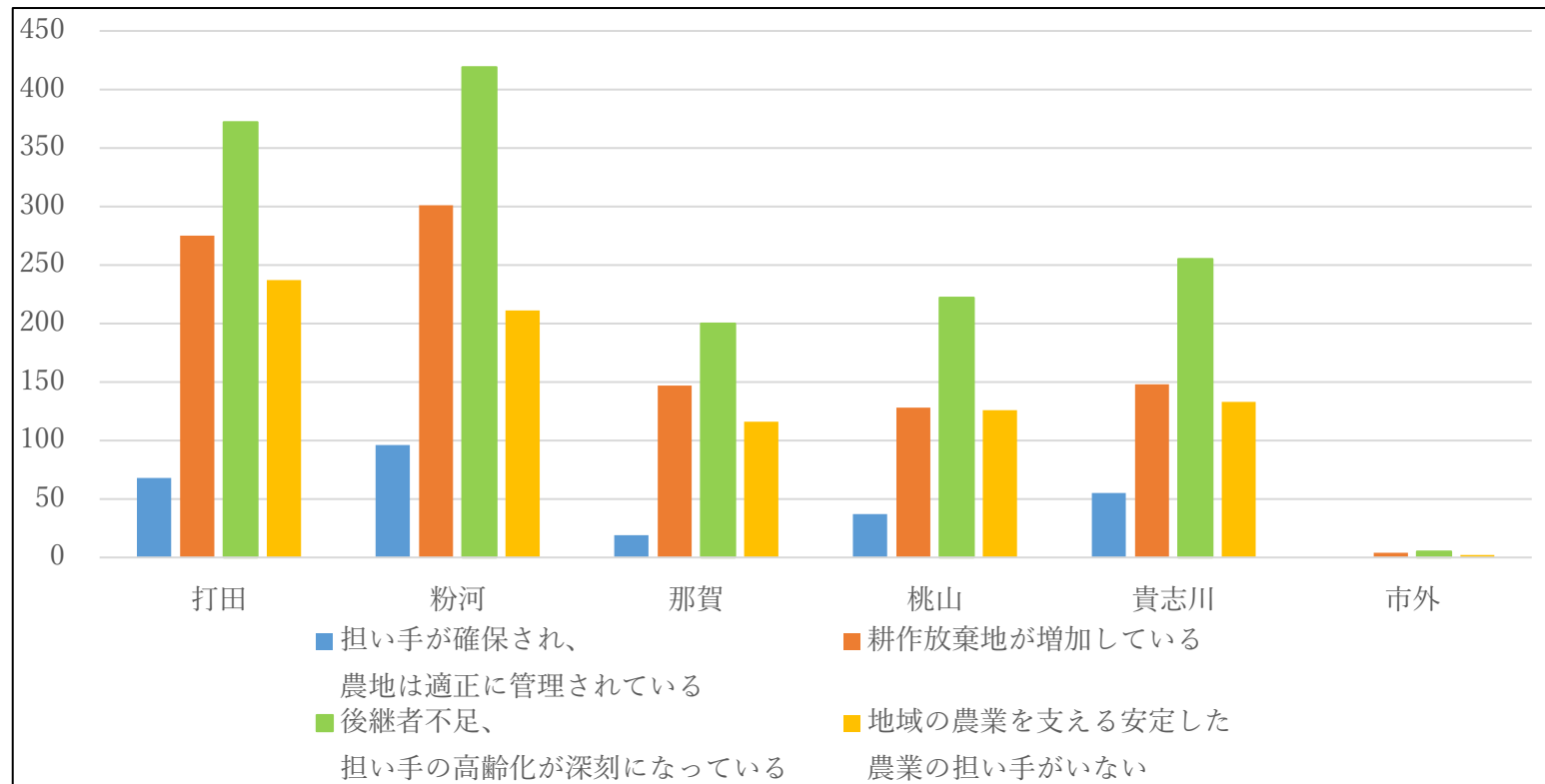
	全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川	市外
個人間での貸し付け	371	94	105	44	57	71	0
農地中間管理機構の活用	254	87	75	25	30	37	0
自己保全管理 または不耕作	356	70	108	57	54	66	1
作業委託	133	45	35	13	17	22	1
売却（借りている場合は返却）	310	99	79	31	42	59	0
合計	1,424	395	402	170	200	255	2



〔問 8〕 地域の農地や農業者の状況について

【あてはまる項目すべてに☑をつけてください】

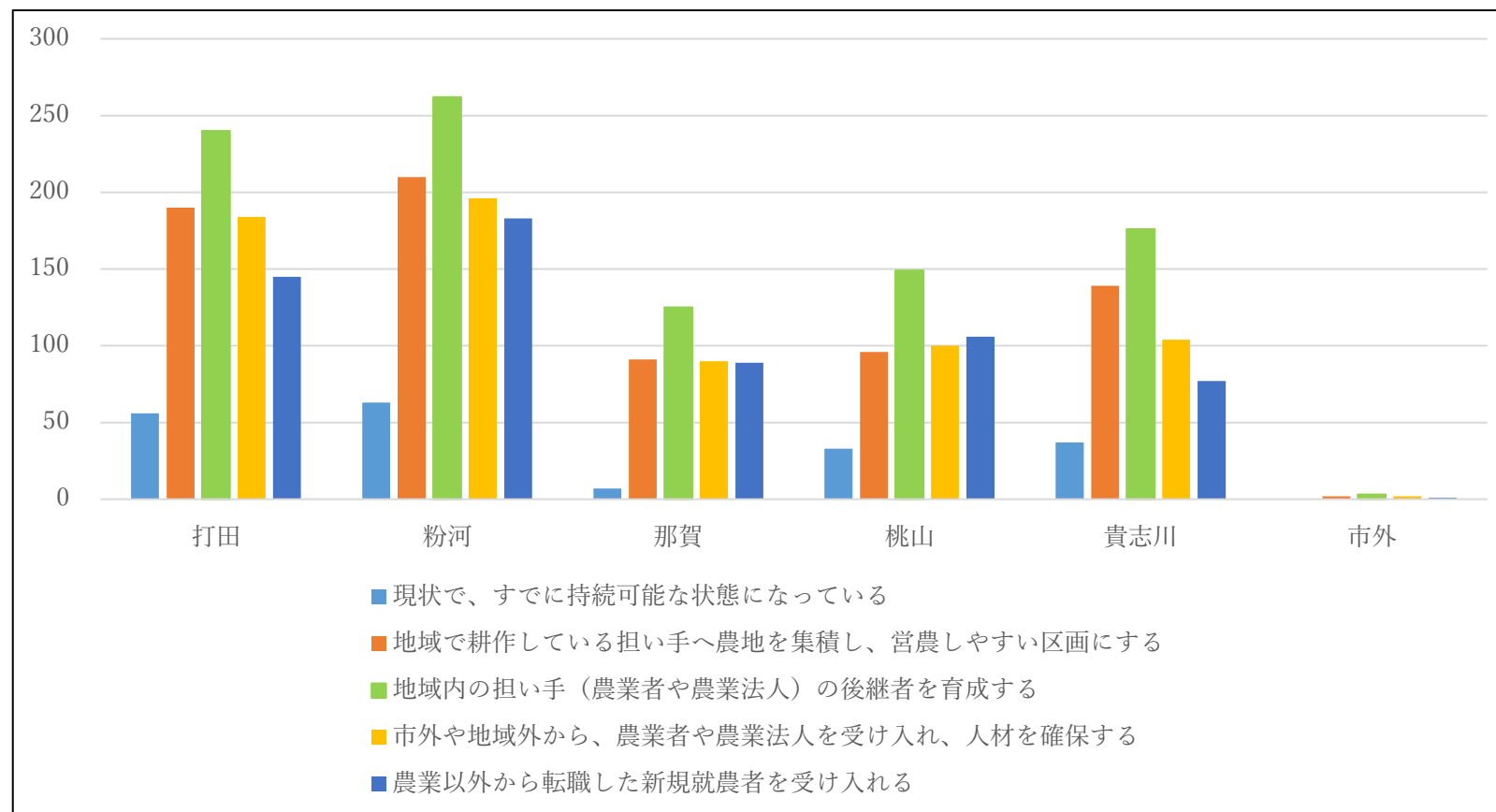
	全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川	市外
担い手が確保され、 農地は適正に管理されている	275	68	96	19	37	55	0
耕作放棄地が増加している	1,003	275	301	147	128	148	4
後継者不足、 担い手の高齢化が深刻になっ ている	1,473	372	419	200	222	255	5
地域の農業を支える安定した 農業の担い手がない	825	237	211	116	126	133	2
合計	3,576	952	1,027	482	513	591	11



〔問 9〕 地域農業を 10 年後も持続可能にするためには

【あてはまる項目すべてに☑をつけてください】

	全体	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川	市外
現状で、すでに持続可能な状態になっている	196	56	63	7	33	37	0
地域で耕作している担い手へ農地を集積し、営農しやすい区画にする	728	190	210	91	96	139	2
地域内の担い手（農業者や農業法人）の後継者を育成する	955	240	262	125	149	176	3
市外や地域外から、農業者や農業法人を受け入れ、人材を確保する	676	184	196	90	100	104	2
農業以外から転職した新規就農者を受け入れる	601	145	183	89	106	77	1
合計	3,156	815	914	402	484	533	8



〔問 10〕 地域の農業についての意見等（一部抜粋）

打田	地域が新規就農者を暖かい目でみていただける環境に整えられるようサポートしてほしい。
	Uターン、Iターン、他業種から農業への転換者を増加させる政策をより充実させる。もっと就農しやすい環境を整備すべき。軽トラが横付けできる農道の整備。大型農機を活用しやすい農地の整備、農家に眠っている中古農機を新規就農者へ再活用させる。など
	原則は地域内で後継者を育成するために地域営農集落組織の見直しをＪＡとともに協議し施策を実施する。
	小規模農家が多いので機械を買えば赤字になる。時々しか農業しないのでスキルが低い。安価で農機レンタルがあれば良い。
	区画を整備し耕作しやすくすれば、耕作放棄地も地域内の担い手が引き受けてくれると思います。
	農業は地味ではあるがやりがいがあると思う。ただ景気や天候に左右される不安定さも同時にあるのである程度の支援が必要だと思う。また農業に入っていきやすい環境の提供も必要。中学生高校生対象の農業体験会をすとか。ノウハウを指導すとか。
	自分もそうだが高齢のため体力的に限界を迎えている農家が多いのでは。他人に農地を貸し付けるのはよいが、自分が管理しているようにできるのが不安である。
	高齢者やサラリーマンからの後継者が農業できるよう圃場整備や、容易に短時間で農作業ができる最新農機への買い替えに対しての厚い支援がほしい。
	近年鳥獣や害虫の被害が多く、農業の先行きについて悲観的な人が多い。後継者に継承するにも解決しないと影響が出る。
	自分は農地中間管理機構に貸しているが、あまり機構が活用されていない。
	当地域では、他人への耕作依頼が多く、高齢化により農業者の減少が目立っています。将来を考えたとき、農地を適正に管理されるように利用権設定の強化のもと安心して耕作依頼できるような制度にしてほしい。

粉河	自然災害が多いなか、一定の保証があれば助かる。
	安定した農業所得を得るようブランド農産物がほしい。（生産意欲の向上）
	基盤整備、農道整備、作業の効率化を行い、女性や高齢者が農作業をし易いようにする
	耕作放棄地の管理についての指導の強化
	機械化が図れる農地への整備が今後必要になってくると思う。
	農道や側溝の改修を行い環境を整える。安全対策にも力を入れてほしい。
	近い将来農業の担い手が大幅に減ると思う。市、JA、農地バンクなどが中心となり中間管理制度をもっと活用して人材確保に努めてほしい。
	今のうちに新規農業者の受入体制を積極的に企画し柔軟に受け入れたい。
	農業法人をつくり、6次産業化、人材育成、収入の向上に取り組む。
	2016年に移住就農しました。地域の農家さん達からたくさん面倒を見てもらってます。割と苦も無く経営ができています。良いイメージを発信できれば担い手も増えるのではと思います。
	ふるさと納税の景品やインターネット活用など、今後もっと変化していくのでは。
	新規就農者への優遇措置と生活支援
那賀	5人程度のグループで農地を持ち農業を行う。協業の力を持つ
	市外・県外からの移住就農者を受け入れる際、住居のあっせんや、家賃補助などの特典を付ける。
	圃場整備などで営農しやすい区画にしてほしい。
	高齢化、担い手等の問題もあるが、鳥獣被害対策がまず必要と思う。
	大阪からのアクセスも良くなり観光農園や貸し農園など色々と工夫して発展させられる可能性がある。都会の人は田舎での体験や遊びに興味があると思う。
	高齢化が深刻で耕作放棄地にしていかなざるを得ない状況である。
	地域農業発展のための市の施策を強く望みます。
	自分が所有する農地の周囲にある耕作放棄地を1つにまとめて機械で一気に耕作できるようになれば、効率化、収入アップにつながり、担い手の確保にもつながると考える。
	農業を守る政策をもっととってほしい。
	担い手農業者の農業所得を安定させることが市の農業振興の課題だと思う。

桃山	都会からの移住者を含め、県農業公社の機能を使い全国的にＳＮＳ等でＰＲする。空き家、空き農地の潜在的借受希望者は多いと感じる。
	農業後継者育成のために自治体として農業施策の充実を望む（後継者の後押し）①農機の購入補助やレンタル制度の確立②鳥獣対策や農地整備、耕作放棄地整備③農家の嫁さがしと住宅補助④農産物加工会社等の誘致
	新規就農者などで親の代からの農業者でなければ新たに農地や機械をそろえることは大変だと思う。機械の支援は融資面のみならずリースやレンタル等の制度を確立してほしい。
	樹齢の古い園地が多いため、圃場整備・土地改良を推進願いたい。休作期間の補填も考慮してもらいたい。
	桃山町は「あらかわの桃」が有名ですが、その他作物にも力を入れている方もたくさんいます。種苗の購入、施設建設などの補助をしていただきたい。
	高収益の作物を生産することが大事。農業が若者に見直されることに繋がる。
	シカ、イノシシ、アライグマ、鳥の被害で大変な状況になり困っています。
	農業経営の安定化、新規就農者の増加のために法人化への支援を行い、優良な農地を守り、ひいては災害に強いまちづくりを進めてほしい。山間地にも優良で魅力のある農地があるので是非活かしてほしい。地域全体で農業者を応援する生産消費形態も作ってほしい。
	桃山町の美味しい桃に力を入れて頑張ってもらいたい。
	機械の導入やアシスト等で体への負担を少なくする。
貴志川	農地の大規模化、専業農家の育成により継続可能な体制づくりが必要
	耕作面積が少ないので機械を所有していない。機械がないと農業できないので安価で借用できる所がほしい。
	農業後継者や新規就農者に将来を見据えることができる施策を行う。農業の６次産業化が提唱されているが、２次ないし３次産業化への新たな取組支援も必要
	農地を水田地帯・果樹地帯・野菜地帯・花卉地帯に分けて大規模に集積してはどうか。
	高齢者が多くなってきたので地域農業の将来について考えていきたい。
	企業や農協が農地を買い取って（借り受けて）大農場をつくり、農業を志す若者を中心に大規模な先進農業ができればうれしい。
	個人として今までの農作業の経験を活かし就農を続けたいと思っている。
	私の所有している農地の地域では区画整理（ほ場整備）が必要だと思います。
	イノシシ等の有害獣駆除の徹底が必要。防護柵だけでは防ぎきれない。害獣の数を減らす必要がある。
	農業者の後継者を育成していくことが重要である。